



東京地区生コンクリート協同組合
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号
電話番号 (03) 3271-2181
URL: https://www.t-namakyu.jp/
発行責任者 高村尚

＝協組の動き＝

(8月)

8日(日) 理事会(No. 1176)
11日(木)～17日(水) 夏季休業
22日(月) 理事会(No. 1177)

(9月)

12日(月) 理事会(No. 1178)
26日(月) 理事会(No. 1179)



お子様の作文募集中

本年も9月号に組合員従業員の
お子様の「夏休みの思い出」
作文を掲載予定です。昨年に引
き続き外出もままならない状況で
はありますが、新型コロナに負け
ない元気な作文を募集します。
皆様、奮ってご応募下さい。締め
切りは8月26日(金)です。
応募者には薄謝となまリンちゃん
グッズ進呈。詳細は、各社総務ま
たは組合業務部まで。

2022年度 第1四半期出荷実績と 今後の展望

---出荷状況---

東京協組の 2022 年度第1四半期出荷実績は、前年比 119.5% 年初計画比 101.1%の 758 千 m^3 と前年、年初計画とも上回りました。

これは、一部の工事で未だ新型コロナウイルス禍の影響から脱却できていないと思われるものの、都心部での再開発工事などが順調に推移したことが背景にあるものと思われる。また、6月末の契約残数量は、5,848 千 m^3 と高水準にあり7月以降の出荷も順調に推移するものと思われる。

現状から今後の展開を想定すると、10月以降は260千 m^3 /月以上の出荷が見込まれ、2023年2月には概ね280千 m^3 /月と最盛期を迎えることとなり、現場への安定納入には細心の注意が必要となります。本年1月の調査結果によるとコンクリートミキサ車保有台数(含む固定庸車)は、1,613台と前回調査結果より3台増加し、1ヶ月当たりの輸送量は、278千 m^3 と微増しました。しかしながら、ダミー出荷予定の取り消し忘れや直前キャンセルは、依然として減少方向に向かわず、運転手不足も加味すれば、更に輸送効率は低下することは確実といえます。また、車輛購入金額の急激な高騰や庸車費の値上げなど輸送コスト

を押し上げる要因は目白押しとなっています。運行効率を改善し安定納入を果たすためには予定の精度向上が不可欠といえます。ついては、登録販売店にはこれまで以上に安定納入に向けた協力をお願いしてまいります。

---市況対策---

2022年6月からの新契約案件については、生コンクリート価格3,000円/ m^3 の価格改定をお願いしております。背景は前回の値上げ以降の原材料費、生コンクリート輸送費並びに産業廃棄物処理費等のコストアップに2022年からのセメントや混和剤等の大幅値上げ、原材料や物流等のコスト高騰による混和剤やバッチャープラント部品の価格改定等、更には内部留保を加えたものとしております。

しかし、現状は今回の生コン価格改定を打ち出し時に想定した内容と比べ、セメント価格の追加値上げの表明等、原材料価格上昇幅は大きく上回り、時期が早まるなど、生産・輸送コストは増大し経営状況は日々悪化しています。

ついては、喫緊の課題として、新契約価格の早期且つ満額獲得と旧契約案件の値上げを強い姿勢で臨みます。

	(出荷数量)		(引合、成約、契残)	
	7月(実績)	8月(想定)	7月(実績)	前年比
	前年比	前年実績比		
大型	206,395 m^3 112.3%	190,000 m^3 137.9%	引合	11,296 m^3 6.4%
小型	30,310 m^3 93.3%	20,000 m^3 68.9%	成約	11,071 m^3 7.2%
計	236,705 m^3 109.5%	210,000 m^3 125.9%	契残	5,594,672 m^3 161.6%

新任理事 ご挨拶

酒井 勝弘



5月開催の通常総会で理事に就任いたしました日本強力コンクリート工業の酒井勝弘です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

初めに自己紹介させていただきます。生まれは1962年8月で今月還暦を迎えます。同月にマリリン・モンローが亡くなり、野比のび太が生まれ、その年に東京都の人口が一千万人を超えて、若き王貞治選手が二本足から一本足になりました。出身地は埼玉県鴻巣市(市町村合併前は吹上町)で、就職するまでそこで過ごしました。特に特徴のない田舎町ですが、実家の近くに「石田堤」という堤があり、小田原合戦の際に石田三成が「忍城」を水攻めにするために築いたもので、当時のことが小説(のぼうの城)に面白おかしく書かれています。

次に経歴は、1986年に小野田セメント(現・太平洋セメント)に入社後、経理部→メッキ会社→構造物診断・人材活用会社→経理部→関西支店→建材事業部→九州支店→生コン・セメント販売店→不動産事業部→スポーツクラブ→当社と、多種多様な業

種を渡り歩き、本年5月18日に森田前社長の後を引き継ぎ社長に就任しました。異動の過程で知り合い一緒に働いた方々が、かけがえの無い財産・宝物であると思っていますので、いろいろな業種を経験させてもらい、今は感謝しています。

さて、当業界を取り巻く状況は、カーボンニュートラルの推進やロシアのウクライナ侵攻等による原材料価格の高騰、加えて新型コロナウイルスの蔓延による社会の不安定化などにより、極めて厳しくなっています。斯様な情勢の下、取り組み、やるべき課題については、皆さんよくご承知です。昔の財界の重鎮が「問題は、解決されるためにある」と言っているように、どんな難題も解決可能であると信じています。更に、当協組は、多士済々です。私も、微力ですが、皆さんと一緒に課題・問題解決に尽力するつもりですので引き続きご指導ご協力願います。

(日本強力コンクリート工業株式会社 代表取締役)

2021年度 コンクリート主任技士 合格体験記

毎年この時期にコンクリート主任技士合格者の座談会を開催してその内容をご紹介しますが、本年も新型コロナウイルス感染予防策として座談会を中止したため、合格体験記をご紹介します。以下、3名の合格者の方に、①合格の為の苦労談、会社・先輩のサポートについて、②若い人へ魅力ある職場づくりへの提言、③今後、どのように資格を活かしたいか、という順にコメント頂きました。

【三多摩アソシエイト(株) 東 純さん】

① 4 度目の主任技士の受験で真面目に勉強しなければと思い、試験日までどのように合格をするかを設定して、勉強方法を考え、6月頃から

毎日 5 分、10 分、30 分、60 分少しずつ勉強する事を習慣化する癖をつけました。また、わからない問題があれば先輩、上司の多くが有資格者なので、すぐに聞く事ができる恵まれた環境の中で勉強ができたことが合格の要因だったと思います。苦労談と言えば大人の混和剤（お酒）を我慢する事が大変でした。その我慢と努力と諸先輩方の支えの積み重ねが結果に繋がったと思っています。

② 30 代ですが気付けば 40 代となっていると思うので、若手へ技術の継承を行い、技術向上を忘れずに品質のいい商品を維持し、顧客に対して提供していく事が大切だと思います。少数精鋭の業界内では、難しいと思いますが、諸先輩方からアドバ

イスいただきながら、20 代~30 代の若い人達が発言と作業が行いやすい活躍のできる環境を作っていく、将来を担う人材を育成していきたいです。

③ カーボンニュートラルへの取り組み等の、新技術が活発になってきているので生コン業界関連の CO₂削減に応えられるように技術貢献していきたいと思っています。



【東京エース(株) 高橋 佑介さん】

① 毎年、書き慣れない小論文に苦戦していたので、先輩方に何度も添削していただいた。そのおかげで試験当日は要領よく、内容も自信をもって書くことができた。

同期が先に合格していたこともあって、今年こそは！とプレッシャーの中受験していたので、それから解放されてホッとしている。

② ペーパーレスやテレワーク等が普及する中、生コン業界のアナログ感は否めない。そのため、社員間で密なコミュニケーションをとる必要がある。部署を問わず、何事も分け隔てなく話せる環境や雰囲気をつくり、情報共有のしやすい職場にした。

③ 勉強してきたことをアウトプットし、日常の業務内容の理解をより深め、私自身の仕事の幅を広げたい。



【むさしの生コン(株) 橋本 敦史さん】

① 休日や業務終了後にモチベーションを保ちながらの試験勉強はとて辛いものがありました。試験 4ヶ月前からは短時間でもほぼ毎日、苦手な分野を中心に試験勉強を行いました。また、社内外からのサポート

を受けて合格することができました
② 若手、新入社員には、仕事が楽しく熱中できる環境づくり、資格の取得など向上心をサポートできる職場を作りたいと思っています。

③ 今後もさらに知識を身につけて、ユーザーへの的確なアドバイスや対応を行い、信頼を獲得できるよう資格を活かしていきたいです。



わが社の安全対策

東京コンクリート(株)

当社の安全衛生委員会を中心とした安全活動の中に、安全作業ワーキンググループや安全協議会、協力会社連絡協議会があります。この安全活動を活発にする事で、社員の安全意識を向上させ、事故の芽を摘む努力をしています。今回は、その中の代表的な安全活動についてご紹介します。

1.安全作業ワーキンググループ活動

安全衛生委員会の活動で、足りない部分を補う役割を果たしています。支部や部門を超えて若手社員の軽いフットワークと発想で、安全に対する問題点を自ら解決する経験を積む事ができ、安全教育の一環にもなっています。

活動の一つとして、熱中症対策の強化が挙げられます。空調服の導入や、暑さ指数 (WBGT) が 30 以上で警報が鳴る熱中症アラームを配布しています。

見える化として、毎朝構内に WBGT の予測値によって「注意」「警報」「厳重警戒」「危険」ののぼりを掲揚し、かつ社内情報共有ツール (サイボウズ) にて発信し、注意喚起をしています。

2.安全作業標準及び安全手帳の作成

2018 年に工場で行う全作業を洗い出し、私達が今まで経験した、あるいは他社の災害事例をもとに、正しい手順と方法の安全作業標準を一から作成しました。

服装等の一般心得からガスの溶断作業等に至る迄、数多くの項目を詳細に規定しているほか、震災時に安否確認を行う手順も掲載しました。

この安全作業標準は、携帯サイズの「安全手帳」として持ち歩き、作業前の安全確認に役立っています。



3.安全協議会の開催

工場構内は数多くの業者が混在して作業をするため、その調整をし

なくてはなりません。そのため、材料納入業者及び構内関係者への安全管理として、2ヶ月毎に開催し、コロナ禍以降は WEB 会議により継続して開催しています。それぞれの材料の概算予定数量を事前に知らせることで、ゆとりのある予定調整を心がけていただいています。また安全情報の発信や当社での安全パトロール結果、構内ルールの変更等を報告しています。

4.送り出し教育の実施

各納入業者には「工場構内の基本ルール」や材料種別ごとの動線を明記した「工場内マップ」、そして工場周辺に於ける注意事項をまとめたものを予め送付し、それを基に「送り出し教育」を実施していただいています。運転手さんに当社の基本ルール (構内制限速度、安全通路、立入禁止エリア等) を事前に理解していただくことで、災害防止に努めています。

5.ホイールローダ人感センサーの導入

ホイールローダは、他の車両と動線が重なる状況下では、事故が起こるリスクが高まるため、誘導員を配置して作業にあたっています。

また、立入禁止区域で作業する場合でもホイールローダの前後左右に人 (歩行者・作業員) の接近を検知するブラクステールと言うセンサーにより、接触事故に備えています。

6.協力会社連絡協議会の開催

工場、運輸、構内協力業者の実務担当者が参加する会議です。

安全パトロールでの気付き、日常的なヒヤリハットなど、忌憚のない話し合いができる会議体で、会話の中からそこに潜む危険を抽出したり、身近にある危険をあぶり出しています。

当社では「安全はいかなる業務よりも重要であり、すべてに優先すること」との経営基本方針に基づいてこれからも災害ゼロ活動を推進していきます。